

2012市民安全・安心フォーラム 開催します！

テーマ

～強めよう地域の「絆！」

高めよう市民の「安全・安心の質！」～

小諸市セーフコミュニティ認証内定記念 市民総決起大会
第9回日本市民安全学会小諸大会



入場
無料

◇日時 平成24年9月29日（土）

13時30～17時30分（受付13時～）

◇会場 小諸市文化センター 小諸市甲 1275 番地 2 電話

0267-23-8880

JR小海線 乙女駅から徒歩5分

市民の皆さまのご参加をお待ちしています

主催：小諸市、日本市民安全学会

実施主体：2012市民安全・安心フォーラム実行委員会

【問い合わせ先】2012市民安全・安心フォーラム実行委員会事務局

〒384-8501 長野県小諸市相生町 3-3-3 小諸市役所 総務部総務課

電話 0267-22-1700（内線 304） FAX 0267-23-8766

e-mail somubosai@city.komoro.nagano.jp

～開催趣旨～

東日本大震災は未曾有の被害をもたらし、我々に、「命（安全）とは何か」や「家族やコミュニティの絆とは何か」など、これまでの「安全対策」や「安全教育」のあり方について根源的な問い直しを迫っています。

こうした中、小諸市は、このほど、WHO（世界保健機関）の推奨する「セーフコミュニティ」（国際安全都市）として、我が国で6番目の認証を受けることになりました。

「セーフコミュニティ」は、「予防安全」という人類の「夢と夢」を国内外のネットワークで繋ぎ、コミュニティを場として「人と人」を繋ぐ市民協働の具体的なプログラムであり、約2年間にわたる小諸市の官民一体の活動実績が、国際的に認められたものです。

本フォーラムは、小諸市の「セーフコミュニティ」国際認証の内定を記念し、市民の皆様とその慶びを分かち合うとともに、市民生活の安全の質をさらに向上させるために開催するものです。

基調講演では噴火災害への備えを、また、分科会等では小諸市民の安全・安心の向上に向けての様々な新しい取り組みを紹介するとともに、全国から小諸市へ駆けつけた各界の専門家の皆さんからは、先進事例や好事例についてのお話があります。これらを通じて、「国際安全都市こもろ」の「新しい安全・安心のまちづくりのスタート」としたいと思えます。是非とも、皆様のご参加をお願いいたします。



大会長 柳田剛彦



実行委員長 石

（小諸市長）

（日本市民安全学

会会長）

～基調講演～ 「自然災害 その時、人はどう行動すべきか！」

13時45分～14時30分 企画趣旨

講演

東京大学大学院

総合防災情報研究センター長

教授 田中 淳 氏

（たなか あつし）



日頃は人に恩恵を与えてくれる自然は、時として人知を超えた猛威を振ります。東日本大震災の教訓を今後に生かすため、日本政府は、先に、災害対策基本法の改正案を国会へ提出し、大規模災害への即応力の強化や災害被災者対応の改善、また、防災の教訓伝承や防災教育の強化を図る方針を明らかにしています。

小諸市としても、この未曾有の大災害の教訓を生かすとともに、活火山浅間山の麓に暮らす小諸市民だからこそ抱える、火山防災という地域特有の課題を克服していくためにも、過去の災害事例・教訓に学びながら、あらためて防災安全教育や防災体制のあり方を考える時期を迎えています。そこで、基調講演に田中淳教授をお迎えし、2007年のインドネシア Kelud 火山活動の際の警報の伝達や避難指示のあり方、地元のボランティアが主導的に運営する避難訓練のあり方、避難先地域の受け入れ問題など生きた教訓事例の紹介、また、近年の災害予測技術の活用を通じての防災・減災推進方策、人間の意志決定モデルの精緻化の必要性など、興味深いお話をお伺いいたします。

セーフコミュニティ活動においても、災害対策は1つの大きなテーマとなっており、小諸市民、また、浅間山への観光客の安全・安心のための方途について学びたいと思えます。

分科会1 自然災害に備えるー「命の危機管理」の要諦とは？

企画趣旨

自然災害（噴火・火砕流・融雪土石流など）について、自助（自らの安全）・共助（コミュニティ・近隣対応）・公助（行政等対応）の3つの安全活力の関係について学び、防災情報、避難誘導、防災訓練、関係者の相互理解などについて議論を深めます。また、セーフコミュニティ導入後における3つの安全活力の連携協働による「命の危機管理」のあり方を探ります。

基調報告：石附弘氏（日本市民安全学会会長）

自然災害とセーフコミュニティ

活動報告：中澤雅也氏（小諸市役所 総務課）

小諸市SC防災対策委員会の活動

後藤一明氏（春日井市災害ボランティアコーディネーター連絡会）

市民ボランティア主導による民間防災訓練

山浦弘美氏（小諸市社会福祉協議会）

要援護者支援について

佐藤英夫氏（谷地原区長）

支え合いマップを活用した自治会活動

話題提供：小澤光男氏（横須賀市消防局）

防災と消防

分科会2 地図情報の活用で防犯・防災・交通安全の新展開を！

企画趣旨

近年、ICT技術の進展により、マップ：空間画像情報の活用が各分野で進められています。特に、事故や事件の予防のためには、ひやりハット地図に代表されるように、市民自らが、地域のなかの危険や不安の実態を正しく知り、安全意識の向上や安全行動への動機づけとして役立てることが重要です。分科会では、地図（マップ：空間）情報の活用が、セーフコミュニティの新しいまちづくりのツールとして有効なこと、その推進方策等について、考えてみたいと思います。

基調報告：原田豊氏（科学警察研究所犯罪行動部長）

子どもの犯罪被害の測定と科学的な防犯活動

活動報告：伊藤正直氏（交通安全対策委員会委員長）

小諸市SC交通安全対策委員会の活動

岡田幸子氏（NTTドコモ長野支店）

スマホ等による防災情報の提供

池崎守氏

（特定非営利活動法人さかい hill-front forum 理事長）

IT等情報技術活用と世代をつなぎ人をつなぐ地域活動

話題提供：前田浩雄氏（玉川田園調布会防犯パトロール隊長）

地図情報共有で泥棒退治

分科会3 高齢者の安全安心：セーフコミュニティ型シニアライフスタイルとは？

企画趣旨

高齢化社会が進む中、「老いと安全」をめぐる諸問題を地域ぐるみで情報共有することは、長寿安全安心社会建設の基本です。特に、セーフコミュニティ導入により、高齢者の転倒、不慮の事故事件などの実態など、その脆弱性が明らかになってきました。本分科会では、セーフコミュニティ先進都市十和田の市の事例から知見を得て、小諸市のセーフコミュニティ型シニアライフスタイルの家づくり・まちづくり・コミュニティづくりのための議論を深めます。

基調報告：新井山洋子氏

（十和田市セーフコミュニティアドバイザー）

十和田市のセーフコミュニティ活動

活動報告：甘利守男氏（高齢者の安全対策委員会副委員長）

小諸市SC高齢者の安全対策委員会の活動

藤沢雅実氏（小諸市包括支援センター長）

小諸型地域包括支援

池田佳代氏（株式会社コンセプト代表）

脳を元気にし、楽しみながら交通安全力を高める

総括報告：堀内裕子氏

（日本応用老年学会事務局研究プロジェクト主席研究員）

シニアライフスタイルの創造

分科会4 セーフコミュニティで子どもの安全の質を高めよう！

企画趣旨

子どもをめぐる安全・安心の質をどうすれば高めることができるか。セーフコミュニティでは、子どもの安全プログラムが世界各国で展開されています。特に、学校の安全に関するインターナショナルセーフスクール(ISS)の活動は、子どもの安全についての優れた知見と言え、分科会では、公立小学校としては日本初の国際認証を得た厚木市清水小学校の事例や、小諸市での取組紹介など、子どもの安全についての議論を深めます。

基調報告：倉持隆雄氏（厚木市危機管理部長）

厚木市立清水小のセーフスクールの取組

活動報告：柳沢学氏（小諸市教育委員会 子ども教育課）

小諸市SC子どもの安全対策委員会の活動

山下千鶴子氏（坂の上小学校長）

坂の上小学校の安全教育

堀口まゆみ氏（子どもセンター こもロッジ）

こもロッジ安全教室

白石陽子氏（日本セーフコミュニティ推進機構代表理事）

日本のセーフスクールの取組状況

総括報告：西田佳史氏（産業技術総合研究所）

予防安全の基本的な考え方

分科会5 自殺や虐待予防：「こころの健康」を創造するまちを目指そう！

企画趣旨

自殺の要因は複雑で多岐にわたるものの、自殺をする方のサイン、その悩みや異変のサインに気づき、専門家へ繋げていくこと特に、周辺にいる見守り役ゲートキーパーの役割が重要とされます。

分科会では、学校における自殺予防や地域、職場における自殺や虐待予防のための実践的なゲートキーパーの具体的手法や着眼点、さらには、「こころの健康」を創造するまちづくりのあり方について議論を深めます。

基調報告：菊池美奈子氏（大阪府立園芸高等学校）

学校における自殺リスクの認知とその対応

活動報告：甘利秀夫氏（自殺予防対策委員会委員長）

小諸市SC自殺予防対策委員会の活動

喜多等氏（小諸高原病院長）

精神科医から見た自殺の現状

甲斐尚子氏（佐久保健福祉事務所）

長野県の自殺予防対策

総括報告：藤田大輔氏（大阪教育大学教授）

池田小事件～ISSの国際認証への軌跡

ワークショップ 「科学の力」で「コミュニティの絆」の強化を！

企画趣旨

セーフコミュニティ推進の根幹をなすのは、市民のけがや事件事故の発生データの分析です。その結果を踏まえ、科学的知見に基づく根拠ある安全計画の策定によって、初めて効果的な事件事故に強い市民協働（絆の強化）による安全・安心なまちづくりが可能となります。他方、IT等情報技術力のコミュニティの安全・安心づくりへの積極的活用は、これからのまちづくりに欠かせない市民安全の武器となります。いかに上手に活用するかが、今、問われています。

基調報告：渡辺良久氏（東海大学）

厚木市におけるサーベイランス委員会の活動

活動報告：富尾淳氏（外傷調査委員会副委員長）

小諸市外傷調査委員会の活動

花里恵二氏（小諸厚生総合病院）

医療機関における外傷登録

堀籠正雄氏（小諸警察署長）

小諸警察署のセーフコミュニティ活動

須谷修治氏（都市防災センター客員研究員）

LEDの力、みちの安全・安心・絆の強化